

英國ノ養蠶

財部 靜治

一 輓近ノ英國ハ農業特ニ小農ノ衰替ヲ以テ名アリ、從ヒテ小農經營ニ伴フコト多キ養蠶ヲ以テ英國ト結び付タルコト本題目ノ如キヲ見、人或ハ想ハン、コハ無稽ノ机上觀ヲ説クモノタラント、コハ素ヨリ無理タラス、蓋シ輓近ノ英國ニ養蠶アルヲ聞カサレハナリ。サレト少シク冷靜ニ考フルニ、一貨物ニシテ既ニ國民ノ貴重需

用品タリ、而モ一ニ之カ供給ヲ外國産ノ輸入ニ仰ク所、現時ノ如キ戰亂ニ際シ著シク貿易關係ヲ紊セルカ如キ事情ナシトスルモ、國産トシテ之カ生産業ヲ興スノ可能ナキヤヲ、攻究スルニ至ルヘキヤ觀易キ所ナリ、絹ノ英國ニ於ケル關係ハ斯クノ如シ、加フルニ自發心ニ富ミ冒險企業ノ精神ニ丈ケタル英國人ヲ以テス、英國ニ養蠶ヲ容ルルノ計畫興ラス、又ハ興リシコトナカルヘシト考フルハ、寧ロ痴人ノ夢ナリト觀シ得ヘキモノアリ、カク觀スル迄モナク史上ノ事實

ハ英人カ夙ニカカル計畫ニ勉メタルノ事蹟ヲ傳ヘツツアリ、乞フ少シク紹介センカ。

二 一八二六年英國ノ工藝協會 The Society of Arts 小冊子 Observations on the Culture of Silk by Archibald Stephenson ヲ公ケニシ、ソノ卷頭ニ於テ紹介シテ曰ク、今ヤ不列顛諸島ニ於テ絹ヲ産スルノ可能ニ付、特ニ公衆ノ注意ヲ惹ケルニヨリ、協會ハ此氣運ニ促カサレテ、以下ノ視察報告ヲ公ケニスルコトセリト、而シテ著者ノ公言セル所ニヨルニ、五年間ノ南佛滯在中、養蠶製絲業ヲ大不列顛特ニソノ南部ニ移シ得ヘシトノ思想ニ驅ラレ、注意シテ調査研究セル結果ナリ、夙ニ一七六四年佛國ニ於ケル生絲ノ産額、三千萬リ一ダケニ下ラサリシ事實ヲ擧ケテ、ソノ有利ナルヲ説キ、工藝協會ソノ他ノ機關カ眞ノ愛國的目的ニヨリ養蠶移植ノ運動ニ當リ、其ノ運動進運ニ向ヘルハ悦フヘク、本書之カタメニ多少ノ參考タルヲ得ハ幸ナリトセリ。

三 以上説ク所ニヨルモ亦養蠶ヲ英國ニ入レン

トスルノ運動ハ、一朝一夕ノ氣狂レニ外ナラスト、ナシ難キヲ窺知シ得ヘシ、而モ亦ソノ間特ニ注意スヘキハ、夙ニ第十八世紀ノ中葉英本國カ必スシモ養蠶ニ適セサルヲ認メ、之ヲ米國ニ於ケル諸英領殖民地ニ移サントノ議ヲ、立テタルモノアルコトナリ、乃チ The Culture of Silks; or, an Essay on its rational Practice and Improvement. by the Rev. Samuel Pulteney. 1758. ハ然リ、桑樹栽培、蠶飼育、收繭及蠶種製造、製絲ノ四編ニ分チ、全部三十八章ヨリ成レリ、氏ハ一氣候事情ノ下ニ繁殖スヘキ何レノ動植物モ、之ヲ氣候事情異レル土地ニ移ス場合、一朝一夕ニシテ移植サレ兼ヌヘキヲ認メ、英國ヘノ養蠶移植ニツキテモ亦考フヘキモノアルヲ注意シタリ、乃チ桑樹特ニ黑桑ハ英國ニ於テ容易ニ培養サレ得ヘク、從ヒテ飼料缺乏ハ養蠶ノ障碍タラサルヘキモ、之カ最大障碍タルヘキハ、英國ニ於ケル天候變化ノ頻繁ナルニアリ、蠶カ飼育上簇サルヘキ短期間中、霪深ク濕氣多キ天候ノ口多ク、風ハ烈シ、從ヒテ大ニ收繭ヲ妨ケ、間々

飼蠶ノ半數ヲ殺スト説ケリ、而モ亦適當ナル蠶室、温氣設備等ニヨリ之ニ順應スルノ途アルヲ説キ、唯之カクメニハ相當ノ經費ト注意トヲ要スルヲ以テ、下層民ニヨリ營マレ得ヘキニ非ス餘暇ト能力トヲ有シ、養蠶ヲ以テ夏季ノ一娛樂トシツツ、損得ヲモ亦問フヘキ者ニ適スヘキヲ議シ、一面ニハ又英蘭ニ適スヘキ蠶種ノ選擇ヲ唱ヘタリ、然ルニ米大陸ニ於ケル英殖民地ニツキテハ、New-England ムリ Georgia ニ至ル迄、多クハ桑昌ヘ得ヘク、ソノ最北部ニ於ケル夏季ノ温度モ充分ナルヲ以テ、養蠶ノ目的ハ完全ニ達セラルヘシ、而シテ殖民地ニ於ケル養蠶獎勵ノ結果トシテ、惹起サルヘキ利益ハ多端ナルヘキモ、特ニ下層民カ貧者薄弱者、婦人、小兒ニヨリ等シク行ハレ得ヘキ養蠶ノタメニ、ソノ生活ヲ安樂、富裕ナラシムヘキ利益ハ、貧民ノ勞働勤勉カ一ニ富メル拓殖者ヲ利センカタメ、使役セラルルノ狀アルニ照シ、甚大ナルヘシト説ケリ。

四 英國ニ於ケル養蠶ノ試ミハ、ソノ以前古ク

ヨリ行ハレシモノノ如シ、R. Weston, Tracts on Practical Agriculture and Gardening. 1769 中、夙ニ第十五世紀ニ農書ヲ著ハセシ Fitz-Herbert 以來、一七六九年ニ至ル迄ニ、英人ノ手ニ成リシ農書ヲ紹介セシ、一目録ニヨリテ察スルモ、The perfect use of Silk-worms, englished by Nicholas Gelfe, 1697 以來蠶ニ關スル著書モ抄カラス、英蘭ニ於ケル栽桑及養蠶獎勵ノタメニセル最良宣言ノ一トセラレ、ソノ當時英蘭各郡ノ太守ニ與ヘラレシ James 一世ノ勅書(ソノ一部ハ前記 Weston ノ著書中ニ紹介セラル) 出ラシハ一六〇八年ニアリ、而モ亦英蘭ニ桑樹アルモ、春猶寒ク桑ノ發芽遅クシテ稚蠶ヲ養フノ若葉ナキノ歎、常ニ一大障碍トナリ、蠶業永ク振ハス、英國絹織物業者ヲ養フニ足ルヘキ、自國產生絲ノ產出ヲ見ルニ至ラザリシトハ W. Harte, Essays on Husbandry. 1764 中ニ説ク所ナリ、兎ニ角獎勵ノ聲起リシハ古ク、又爾來數世紀間絶エス續ケラレシモ、遂ニ有利ナル一産業トシテ、多數下層民間ニ普及スルニ至ラス、單ニ有福ナル一部

ノ人々ニヨリ、試験又ハ道樂トシテ營マルルノ域以上ニ、發達セサリシモノノ如シ、Pulvin説イテ曰ク、英國貴女ノ探レルカ如キ飼育法、假リニ諸養蠶國ニ於テ行ハレタリトセンカ、ソノ生絲ハ同シ目方ノ金價以下ニテハ、賣リ兼スルニ至ラント、天候ノ不良以外人事未タ盡サス、諸養蠶國ノ實地ヲ審カニシツツ、廣ク之ヲ參考取捨スルノ心掛ナカリシ時人ノ愚ヲ、罵倒シ得テ痛快ナラスヤ。

五 我邦生絲ナキヲ憂ヘスシテ、戰時羊毛不足ノ歎アリ、カカル時勢ニ際會シテ、緬羊飼育獎勵ノ聲アルヤ故ナキニ非ス、而モ亦之ヲ以テ小農ノ副業タラシメントスルノ議アルヲ聞ク毎ニ、ソノ望洋々タルヤヲ疑ヒ、又夏季豚肉ノ供給杜絶スル京都ノ地ニ住ミツツ、倫敦下宿屋ノ晝食ニ際シ羊肉ニ苦シメラレシ事實ヲ聯想シ、國家ノ急務ハ果シテ飼羊副業カ、養豚副業ニ非ルカト、時トシテ冥想シツツアリ。而モ亦右獎勵策ノ立案施設者ハ、緬羊及牧草ノ生存條件ト、本邦小農ノ能力及心情トニ、精通サレツツ施設

セラルルコトヲ確信シ、ソノ前途光明ニ充テルヲ祈ルコト頻リナリト雖モ、偶々英國養蠶史ノ片影ヲ一瞥シ、ソノ結果又之カ前途ニ付、英國養蠶ノ覆轍ヲ危ウムノ婆心アリ、本邦小農ノ緬羊飼育法保護策ヲ諸牧羊國ニ施サンカ、毛織物ハ最早之ヲ買ハントスルノ成金ナキ迄ニ、高價ナルニ至ラント、議スルノ一 Pulvin 百年ノ後ニ起ラサルヲ必セストスルノ念ナキ能ハス。